

●調査レポート

SDGs（持続可能な開発目標）の取組調査

調査対象：県内企業 552 社

調査方法：アンケート方式（8月下旬 郵送回収）

回答企業：185 社(回答率 33.5%)

業種別内訳：製造業 105 社 非製造業 80 社

要旨

○県内企業のSDGsの取組状況は、全産業で「すでに実施している」が7%、「具体的な検討を進めている」が5%とSDGsの取組をしている企業は約1割にとどまっている。「具体的な検討に至っていない」が49%と半数にのぼっており、「全く知らない」が15%、「SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が12%、「関心はない」が12%と、4割の企業はSDGsに対する意識や関心度が低い状況にある。

○「実施している」、「具体的な検討を進めている」と回答した企業に、実施（検討）している取組が、何れのSDGsのゴール（目標）に結びついているか（複数回答）を伺ったところ、全産業で「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」が50%で最も多くなっている。次いで、「働きがいも経済成長も⑧」、「産業と技術革新の基盤をつくろう⑨」がともに38%で、これに「すべての人に健康と福祉を③」が33%で続いている。

～SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）とは～

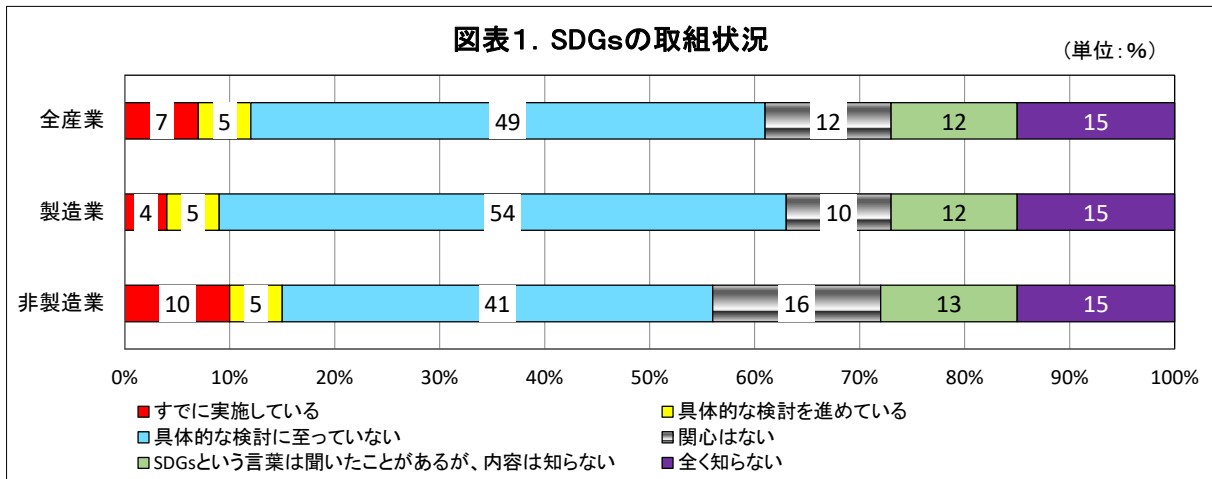
2015年の国連サミットにおいて、グローバルな社会課題を解決し持続可能な世界を実現するため2030年を年限とした国際目標で17の国際社会共通理念の目標である。これを受けて、世界各国の企業では、経営リスクを回避するとともに、新たなビジネスチャンスを獲得して持続可能性を追求するためのツールとして、SDGsを経営の中に取り込もうとする動きがみられる。



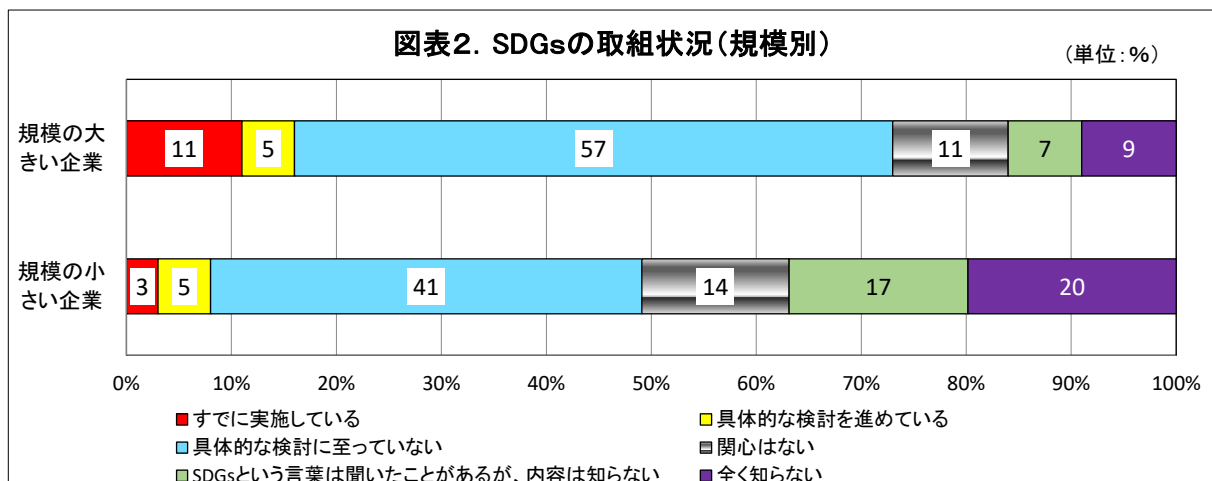
### 1. SDGsの取組状況

SDGsの取組状況について聞いたところ、全産業で「すでに実施している」が7%、「具体的な検討を進めている」が5%とSDGsの取組をしている企業は約1割にとどまっている。「具体的な検討に至っていない」が最も多く、49%と半数にのぼっている。「全く知らない」が15%、「SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が12%、「関心はない」が12%と、4割の企業はSDGsに対する意識や関心度が低い状況にある。

業種別にみると、「すでに実施している」は、製造業で4%、非製造業で10%、「具体的な検討を進めている」は、製造業、非製造業ともに5%となった。非製造業の方が製造業に比べSDGsに幾分前向きに取り組んでいるとみられる。「具体的な検討に至っていない」が、製造業で54%、非製造業で41%と最も多かった。「全く知らない」、「SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」の2項目を合わせた割合は、製造業、非製造業ともに約3割となった。また、「関心はない」は、製造業の10%に対して、非製造業はやや多い16%となった。(図表1)



規模別にみると、「すでに実施している」は、規模の大きい企業で11%、規模の小さい企業で3%、「具体的な検討を進めている」は、規模の大きい企業、規模の小さい企業ともに5%と、規模

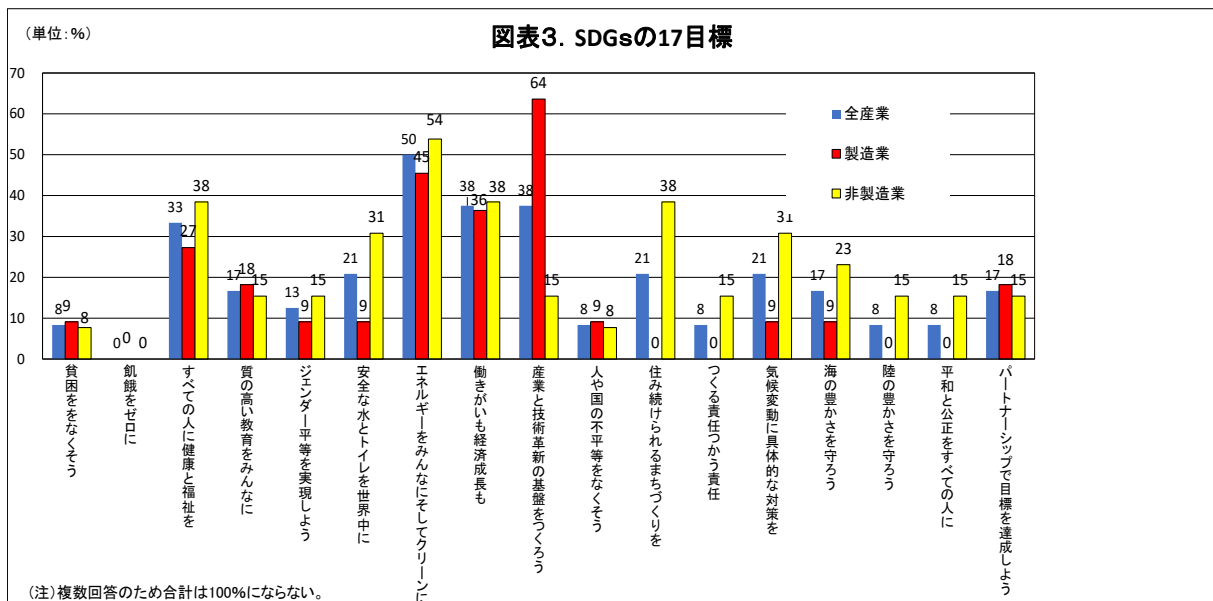


の大きい企業の方が規模の小さい企業に比べSDGsの取組が進んでいるとみられる。「具体的な検討に至っていない」が、規模の大きい企業（従業員 100 人以上）で57%、規模の小さい企業（従業員 100 人未満）41%と最も多かった。また、「全く知らない」、「SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」、「関心はない」は、規模の大きい企業で、それぞれ9%、7%、11%となり、規模の小さい企業で、20%、17%、14%となった。これらの3項目を合わせた割合は、規模の大きい企業の27%に対して、規模の小さい企業は51%にのぼった。規模の小さい企業では、SDGsはあまり認知されていない。（図表2）

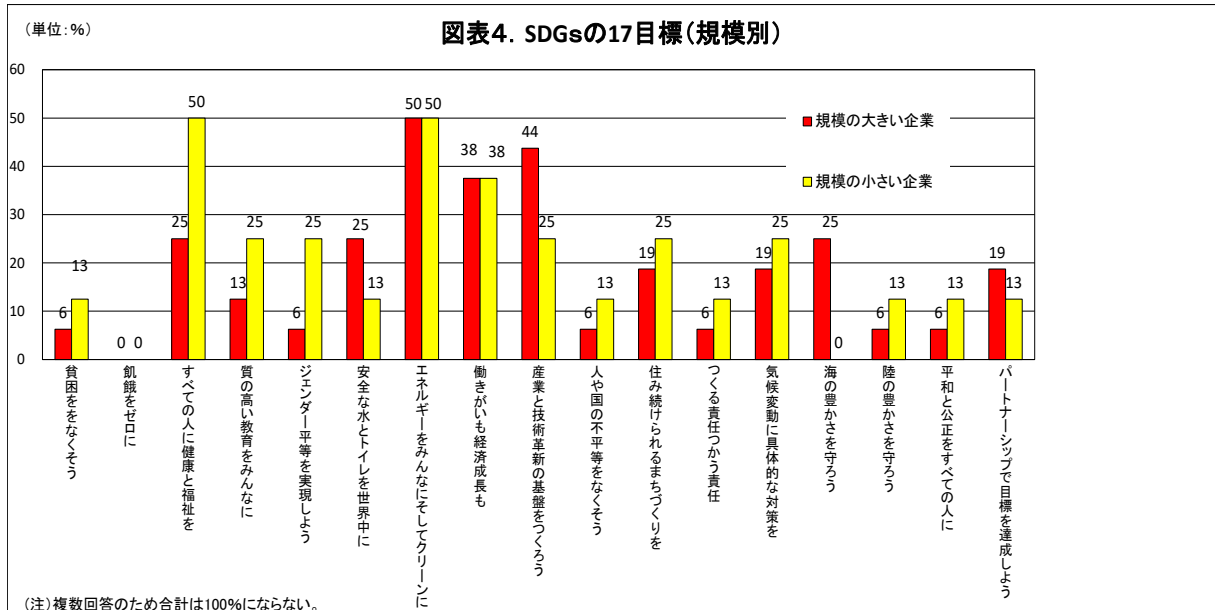
## 2. 実施（検討）している取組が結びついているSDGsの目標

次に「実施している」、「具体的な検討を進めている」と回答した企業に、実施（検討）している取組は、何れのSDGsのゴール（目標）に結びついていると考えているかを伺ったところ、全産業で「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」が50%で最も多くなっている。次いで、「働きがいも経済成長も⑧」、「産業と技術革新の基盤をつくろう⑨」がともに38%で、これに「すべての人に健康と福祉を③」が33%で続いている。企業の取組は、事業との関連がある環境・産業に関する目標に多く結びついている。

業種別にみると、製造業では、「産業と技術革新の基盤をつくろう⑨」が64%と、他の目標を引き離して最も多くなっている。これに、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」が45%、「働きがいも経済成長も⑧」が36%、「すべての人に健康と福祉を③」が27%で続いている。非製造業では、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」が54%で最も多く、次いで「すべての人に健康と福祉を③」、「働きがいも経済成長も⑧」、「住み続けられるまちづくりを⑩」の3つの目標がともに38%で続いている。これに「安全な水とトイレを世界中に⑥」、「気候変動に具体的な対策を⑬」がともに31%で、非製造業の方が製造業に比べ取組がより多くの目標に結びついている。（図表3）



規模別にみると、規模の大きい企業では、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」が50%で最も多く、次いで「産業と技術革新の基盤をつくろう⑨」が44%、「働きがいも経済成長も⑧」が38%で続いている。規模の小さい企業では、「すべての人に健康と福祉を③」、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑦」がともに50%で最も多く、次いで、「働きがいも経済成長も⑧」が38%となっている。(図表4)



### 3. SDGsの具体的な取組

SDGsの具体的な取組を伺ったところ、製造業では、「発表会などにおいて従業員等に告知、教育を実施している」(金属製品)など社内への理解・浸透に取り組むほか、「社内のブランディングや販売ツールとして」(鉄鋼・非鉄金属)、「SDGs 私募債の発行」(電気機械器具)、「女性活躍社会の実現に向けた取り組みや子供の虐待撲滅や貧困家庭の減少に寄付」(飲・食料品)等が挙ってきている。

非製造業では、『さいたま市CSRチャレンジ企業』に認定され、CSR(企業の社会的責任)活動をベースに、幅広い取組を行っている(15/17のゴール(目標)に関わっている)(建設)、「管理職の女性比率を高める。ワークライフバランスを尊重する。社内制度、仕組みづくり」(小売)、「ISO50001(エネルギーマネジメントシステム)やエコチューニングによる省エネサービスをSDGsに合わせて提供する」(サービス)等が挙っている。